

現場主導のノーリフティングケアを目指す

介護老人保健施設 ほ乃ぼの園

開始当初の状況

- 福祉用具の数が少ない
使い方が自己流
適切に選定できていない
- 高齢の職員は移乗介助しない（できない）
- 腰痛予防への意識は低い

腰痛割合：25/35名
71.4%



福祉用具を間違った方法で使用して腰痛がひどくなる
利用者にケガをさせてしまう
高齢職員だけでは業務に支障が出る

①同法人施設のひまわり園がノーリフティングケア事業に参加、ほ乃ぼの園にも取組内容について情報が入ってくる

福祉用具の使い方を学んでいる

腰痛予防の取組

福祉用具を使うだけじゃない

リフトを購入したらしい

毎月研修をしている



ノーリフティングケアの学習会



面倒くさそう

と、他人事のように・・・

②ほ乃ぼの園もノーリフティングケア事業に参加

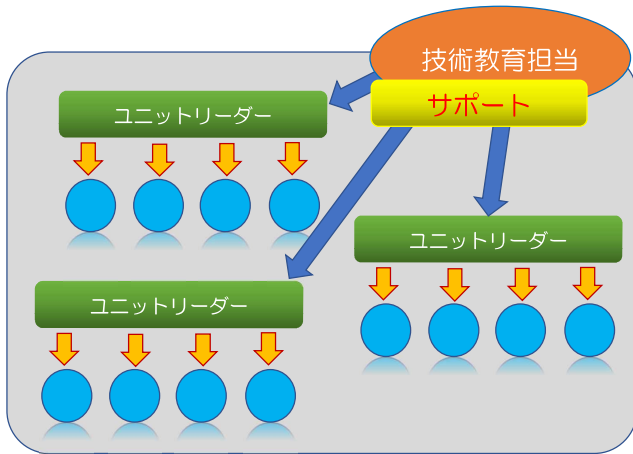
ひまわり園を参考に

- 統括リーダーは施設運営に関わる事務長
- メンバーはPT・看護・介護・相談員・事務から選出。

「興味を持つ」

をキーワードとして計画に組み込む

③職員への技術指導開始



④委員会主導から現場主導となるように

ポジティブな意見

「めちゃくちゃ楽で私にもできる、すごく感動した」

- ポジティブに捉えている職員が積極的に実践
- リンクスタッフを選出

良い影響

ネガティブな意見

時間がかかる
腰痛は無いから私には関係ない

意識の変化

⑤福祉用具を求める声が上がってきた

腰痛リスクでよく拳がっている意見

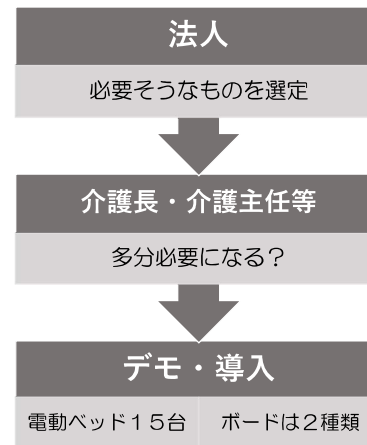
- 電動ではないベッドのギャッジアップ
- 特浴の着替え用ベッドと車椅子等の高さが合わない



現状は従来通り抱え上げ



⑥取組前の福祉用具導入

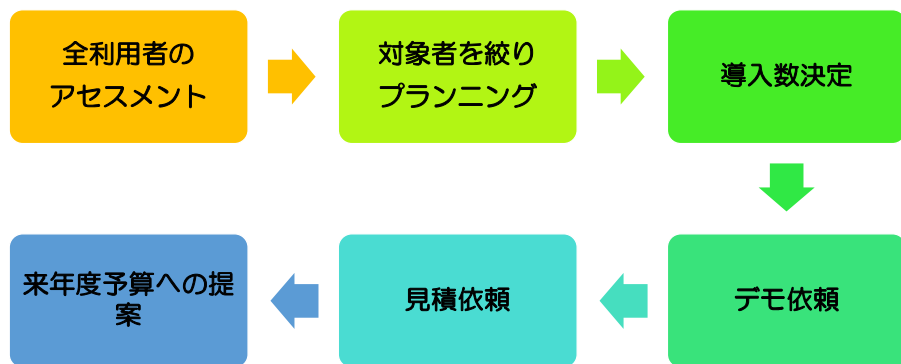


- 電動ベッドは離床センサーとして使用

- スライディングボード、フレックスボードは倉庫へ

ノーリフティングケアの視点から導入計画！

⑦福祉用具導入を現場側から提案



実際に導入した後も責任を持って取り組んでいく意識を持った。

⑧現場の変化点

腰痛割合：21/37名
56.8%

良くなった点

- ・ リーダーを中心とした技術指導の流れ
- ・ 高齢職員も起き上がりや移乗介助ができる
- ・ 担当介護がADL等状況を定期的に確認
- ・ 腰痛予防の意識が芽生え始めた
- ・ 便乗してデータ化
介護ソフトへの入力
Googleフォームでの意見集約



⑨今後の課題

悪かった点・出来ていない点

- ・ 電動ベッドや跳ね上げ式車椅子が少ない
- ・ 職員間のノーリフティングケアに対する温度差
- ・ 腰痛リスク抽出からの個別対応策・周知・見直し
- ・ 新人教育プログラムへの組み込み（技能実習生含む）

最後に・・・

取組を通じて行ってきた計画立案・実施・見直し・報告の流れを繰り返し、現場主導で施設全体の方向性を決めていく経験が出来た。

腰痛予防や利用者の負担軽減はもちろん、現場の声で組織を形成するいい経験ができています。

ノーリフティングケアを継続していく！